



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.74

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2019.冬

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

## 第59回企画展

## 谷川連峰

～絶景といのちが織りなすエコパークの山々～

共催 みなかみ町



**期間** 2019年**3月23日(土)～5月19日(日)**

**観覧料** 一般610円(480円) 高校・大学生300円(240円) 中学生以下無料

※( )内の数字は、20名(有料観覧者)以上の団体料金です。

### <イベント開催!>

#### 企画展記念シンポジウム

「いつまでも美しく

豊かな谷川連峰であり続けるために」

日時：4月14日(日) 13:30～15:30

講師：日本自然保護協会職員、

谷川岳エコツーリズム推進協議会会員、

みなかみ町エコパーク推進室職員

対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員：100名 参加費：無料

会場：博物館 学習室

#### 企画展観察会

「みなかみ町共同企画 谷川岳天神平観察会」

日時：5月26日(日) 9:15～15:00

集合・受付場所：谷川岳ロープウェイ土合口前

場所：谷川岳天神平

講師：当館職員・谷川岳エコツーリズム推進協議会会員

対象：小学生以上(小学生は保護者同伴 山登りが可能な方)

定員：30名

参加費：50円

(ロープウェイ・リフト代は各自ご負担をお願いします)

## 「谷川連峰 ～絶景といのちが織りなすエコパークの山々～」

谷川連峰は主峰・谷川岳の大岩壁や平標山・仙ノ倉山のお花畑など、絶景を見ることができる山々として知られています。一方で、急峻な地形や太平洋側と日本海側を分ける山脈という立地から、多雪、強風が支配する厳しい自然環境を持つ山々でもあります。谷川連峰には厳しい自然環境に耐えながら、高山植物や北方系・多雪地系の動物が多数生息しています。また、その中腹や山麓の溪流沿いには、環境に合わせてさまざまなタイプの自然林が広く残されています。

連峰をとりまく地域では、恵まれた自然と調和しながら生活が営まれてきました。特異な自然環境と豊かな生態系、調和の取れた利用から、谷川連峰はみなかみユネスコエコパークの核心地域に指定され、今後その自然はさらに注目を集めることが期待されます。この企画展では、谷川連峰の地形・地質や生物は、なぜ特異で多様なのかという視点から紹介します。また、この貴重な自然を後生に伝えていくために、日々努力されている皆さんの活動も紹介します。（学芸係 大森 威宏）



ミチノクヨロイグサ咲く肩ノ小屋(背景はオジカ沢ノ頭)

## 自然のコラム 海藻シリーズ①

### ～ 褐藻類 ～

岩にびっしりと付いているこの褐藻類は何でしょう？ 正解は・・・ヒジキです。春先になると、磯にびっしりと生えます。



海藻は、色の違いから褐藻類（茶色）、緑藻類（緑色）、紅藻類（赤色）の3つに分けられます。日本には約 350 種類の褐藻類が生育しており、浅瀬にはウミウチワ、カゴメノリ、フクロノリなどがよく見られます。

食卓に並ぶ褐藻類では、コンブ、モズク、ワカメなどが思い付きます。ワカメって緑色じゃないの？と思った人も多いでしょう。実は、褐藻類は緑色と黄色、それにタンパク質と結合して赤色に見える色素からできているので茶色に見えます。しかし、お湯につけると、この赤色が本来の橙色に戻るため、ワカメは黄緑色になるのです。

海藻は冬から春先に成長し夏には枯れてしまうので、今が海藻を見るチャンスです。足を伸ばして海へ行ってみませんか？ 潮が引いた磯にはたくさん海藻が待っています！（学芸係 伊藤 智史）

## 参考文献

ネイチャーウォッチング ガイドブック 海藻 誠堂新光社



ヒジキ



ウミウチワ



カゴメノリ



フクロノリ

「博物館では研究もしているんですね。」と驚かれることがあります。博物館にとって調査・研究はなくてはならない重要な仕事です。博物館法にも明記されていますので、調査・研究をしていない施設を博物館と呼ぶことはできません。この「研究の扉」のコーナーでは、県立自然史博物館の学芸員がそれぞれ取り組んでいる研究について紹介しています。

私は地質・岩石・鉱物分野を担当している学芸員です。今回は専門的な研究テーマではなく、調査・研究で明らかになった結果を活用するための工夫（研究）についてお話しします。

ここ数年間、天然記念物の整備・活用プロジェクトやジオパークの仕事をしてきて特に感じるのが、調査・研究内容を活用することの難しさです。研究者たちが明らかにした調査・研究結果を活用するのは、大抵の場合、地域の人々です。例えば、天然記念物では教員や自治会などの地域の人々が、ジオパークでは教員やジオガイドと呼ばれるガイドさんたちが、興味に惹かれてやってきた人々や地域の子どもたちに、調査・研究結果をわかりやすく伝えます。しかし、それらの結果を地域住民が活用することはそう簡単なことではありません。その理由は、内容や結果の理解が難しいことでもありますが、調査・研究を始めた動機、目的から研究方法の模索、経緯、結果、考察に至

る一連の流れを経験していないため、自らの言葉で語るができないからでもあります。

この問題を解決するために私が最近取り組んでいることは、社会学や教育学で注目されつつある「実践共同体」と協働して進める調査・研究スタイルです。実践共同体はカタカナで「コミュニティ・オブ・プラクティス」と呼ばれたり、英語表記の頭文字をとって「COP（コップ）」と呼ばれたりすることもあります。特徴は、ある目的のために自発的に集まった人たちが構成され（ただし出入りは自由）、関わることで学びや知識の向上に結びつくということが挙げられます。また、決定権を持つフォーマルな団体・機関（例えば、行政機関、民間企業、学校、自治会など）を横断する横串のような二重網構造を持っていて、フォーマルな団体では発言しづらい意見を自由に出して調査・研究を進めることができます（図1）。「実践共同体」で行う調査・研究を進めることで、関わった地域の人々が、誇りや熱意を持って自らの言葉で語るができる「持続可能な」調査・研究結果の活用へ繋がるのです。

地質・岩石・鉱物分野では、このような「実践共同体」と積極的に関わり、調査・研究を学際的に行うとともに、持続可能な活用形態に結びつけるということを意識して行っています。

（学芸係 菅原 久誠）

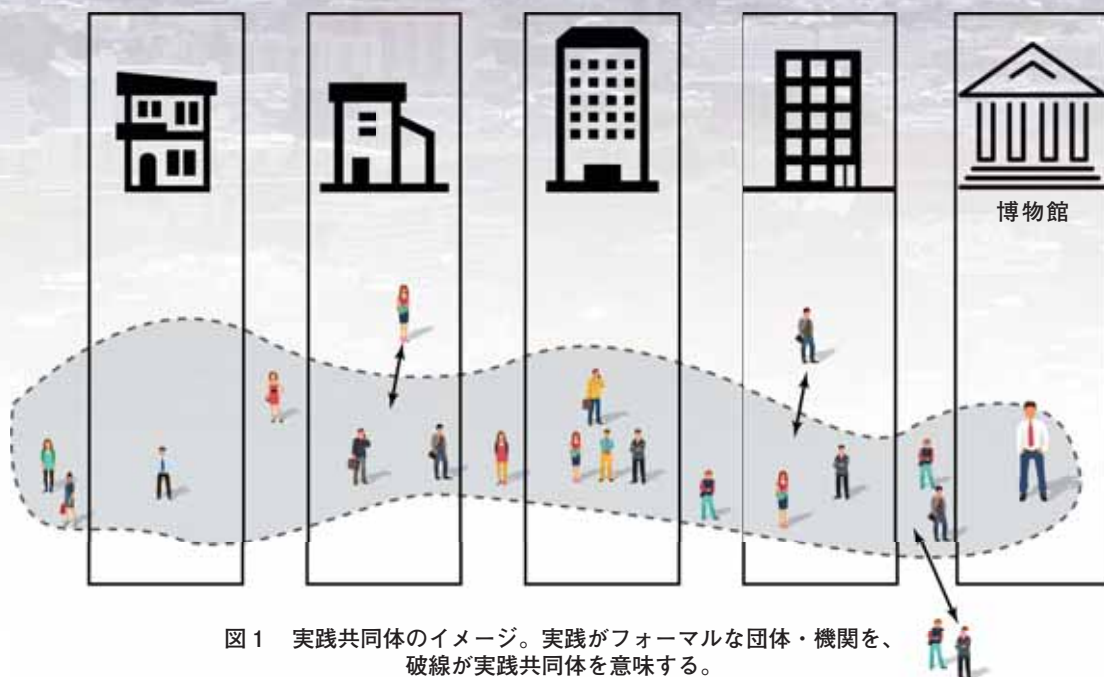


図1 実践共同体のイメージ。実践がフォーマルな団体・機関を、破線が実践共同体を意味する。

# 高校生学芸員

自然史博物館では、社会教育施設及び研究機関として、県民の自然科学に対する興味・関心を高めるために高校生を対象とした事業も実施しています。

この事業は高校生が、植物、哺乳類、昆虫、貝類、化石、地質、菌類の7分野の中から、自分の研究するテーマを博物館職員と相談しながら検討した上で、博物館職員の指導・助言等を受けてグループや個人で調査・研究を行います。そして、調査・研究した結果を、年度末に研究報告会の中で報告します。

高校生学芸員を希望する高校生は、実際に学芸員として活動する前にオープンラボやオリエンテーションに参加し、自分の興味・関心がある研究について学芸係職員と打ち合わせを行ったり、館内の研究施設・設備を見学したりすることで、自分が行いたい研究の方向性を確認する機会を持ちます。そして、研究の方向性が定まり、見通しを立てた後に高校生学芸員としての活動を始めます。



今年度は、植物2名、昆虫3名、菌類2名、化石1名、地質1名合計9名が高校生学芸員として活動しています。高校生学芸員は、自らの課題を見つけ自分で解決していくこと、新しい発見や気づきを実体験できるところに良さがありません。博物館の施設や学芸係職員の支援を得て、今までにできなかった問題を解決できる場になっています。フィールドに出て自然体験をし、自然の雄大さや素晴らしさ、化石や岩石等に触れることで、自然の歴史の継続性を感じられるようになっていきます。

以前、高校生学芸員として参加した高校生に話を伺ったところ、「貴重な体験をすることができた。ミュージアムスクールでは、自然の中で学芸員に教わることができた。とても学びが多かったが、受け身の感じだった。高校生学芸員では、自分のやりたいことができてとても楽しかった。今度は、同じ分野で別の種の研究をしてみたい」と話していました。また、今の生活の中で役に立ったことは「自分で自主的に活動すること」という実感ももっていました。高校生学芸員の活動を通して、調査・研究の方法や学びだけではなく、自分の生活にも影響を与える活動になっているようです。

今年度の高校生学芸員も、博物館の裏山や下仁田に調査に出かけてサンプルを採取したり、博物館内に収蔵されている資料を研究したりして活動を行っています。また、図書館にある書籍や先行研究の英語論文を読んで自分の研究に役立てようとする姿も見かけています。3月の研究発表会に向けてどのような研究発表が出されるのか、とても楽しみです。

(教育普及係 石川 直紀)



## 利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第59回企画展開催時 (H31.3.23～5.19)	610円 (480円)	300円 (240円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

※( )内は、有料観覧者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより  
Demeter No.74

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。